

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071602033		
法人名	(有)コスモピア		
事業所名	コスモピア高良内		
所在地	福岡県久留米市高良内町3919番地5		
自己評価作成日	令和7年2月11日	評価結果確定日	令和7年5月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.kaiakensaku.mhlw.go.jp/40/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市南区井尻4-2-1 関ビル1F TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	令和7年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

「コスモピア高良内」は市の公園が隣接しており、静かで穏やかな環境で日常的に外気浴や散歩が無理なく楽しめます。季節の花々を眺めゆったりと過ごす事ができます。桜の季節は公園に花見の方が多く訪れます。

利用者様は、ホームで生活されるなかで、近隣で提携医のつむらファミリークリニックの津村先生との連携により健康面では安心して過ごす事ができます。開設して20年を過ぎ勤続年数が長い経験豊富な介護スタッフが自宅のような雰囲気でも過ごして頂いています。また、個別支援の視点で一人一人の希望に添えるように配慮しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「コスモピア高良内」は平成16年に開設、20周年を迎えた。「内野さくら公園」に隣接しており、窓からも四季折々の草花が眺められる。九州高速道を越えて住宅街の入り口にあたる閑静な場所に立地しており、近くには大きな団地や自衛隊、大学医療センターなどがある。事業所の敷地も広く、1ユニットずつ独立した作りで、それぞれ趣のある佇まいをなしている。コロナ禍も落ち着き、家族の面会や家族との外出の制限は撤廃、外出や地域との交流は積極的であり、日々の食事はオリジナルによる手作り、近隣の提携医とのきめ細やかな連携があり、利用者は安心して過ごすことができ、家族の満足度の高さがうかがえる。家庭的な雰囲気の中で、楽しみながら自分のペースで過ごすとともに、自立に向けた目標を持って日常生活に取り組んでいる。今後とも、地域を支える介護事業所としての活躍が期待される。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	58	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	59	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	60	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	61	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	62	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	63	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	64	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「運営理念、方針、私たちの使命」を掲示し、毎朝の朝礼時に皆で唱和し仕事に取り組む姿勢を日々確認している	「運営理念・方針・私たちの使命」を玄関・フロアに掲示している。毎朝の朝礼時に全員で唱和し、仕事に取り組む姿勢を確認している。期初に年度目標を立て、年2回振り返る機会を持っている。理念の共有とそれに基づくケアの実践を図り、判断に迷った時には理念に立ち戻って行動ができるよう、意味を深めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議に地域の方が来てくれている、その時に地域の情報などを頂いている、地域の中学生の職場体験学習を受け入れている	コロナ禍も落ち着き、次のような交流が図れるようになってきた。 今後一層深めていこうと考えている。 ・職員と近隣を散歩する中で、市民農園で作業されている方とお話をする機会がある。 ・介護相談員(月1回、2名)の来訪がある。 ・地域の中学校の授業の一環で、中学生よりタブレットでインタビューを受けた。 ・地域に高齢者が増えたことから、包括が主体となり、地域密着型事業所意見交換会で話し合いを行っている。 ・包括主体の、行方不明者が出た際の協力依頼体制のネットワークにより、模擬訓練に参加している。	事業所の横に公園があり、幼稚園児や保育園児が遊びに来るようですが、改めて交流が図れたら良いと思います。 専門学校の学生のボランティアの受入がコロナで中止になったと聞く。新年度は再開できたら良いと思います。 事業所内にて、行事の時や、日常的な一コマなどについて、地域のボランティア(現在、来訪が中断されているとのこと)の利用などを検討してみたいかかでしょう。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	久留米市南包括支援センター主体の地域密着型サービス事業所間で、事業所で行方不明者が出た際の協力依頼体制のネットワークに参加している 昨年は模擬訓練に2回参加した			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催案内と会議次第、議事録を全家族に配布し、運営報告を行っている、ヒヤリ・ハット、事故報告なども報告している為、ご家族から内容について、質問を受けたり、アドバイスを頂く事もある	コロナ禍も落ち着き、2ヶ月に1回の定期開催が再開されて、すでに定着している。市職員または包括のどちらか1名、元民生委員(ボランティアもしていた方)、近隣の特養の管理者、利用者(以前はスタッフとして働いていた方)らが参加する。状況報告(サービス提供の経過、ヒヤリハット事例など)を行い、前向きな意見や提案、助言などがなされ、運営に役立っている。会議内容は職員にも共有し、日々の業務に活かしている。	家族には案内をして、議事録も送っているが、なかなか参加が見られない、とのことですが、家族の出席があったら、会議もさらに充実したものになるのではないかと思います。開催日時、家族の興味をそそるようなテーマの選定(たとえば、認知症や骨粗鬆症の薬の話などはいかかでしょう)、避難訓練など行事との同時開催、提供する昼食の試食会…など、少し趣を変えて、ご案内をしてみてもよろしいのではないかと思います。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、包括支援センターと運営推進会議の場だけでなく、地域交流会議などでも顔を合わせる為、相談や質問をしたりしている包括支援センターや市の生活支援課から、入居者相談もある	市役所とは、事業所で判断できないような不明な点、困難事例などの相談、事故報告、生活支援課(生活保護受給者の受入あり)についてのやりとりなど、また包括とは空き情報の確認、包括市が主体となる会議などへの参加などを行っている。運営推進会議への積極的な出席もあり、円満な協力関係が保っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、勉強会でたびたび勉強して、理解を深めている、スタッフ皆、身体拘束を行う弊害について十分理解している、身体拘束をしないケアについて年に4回、身体拘束廃止委員会を開いて身体拘束をしないケアについて話し合いをしている	身体拘束はしないという指針を踏まえ、玄関の施錠もしていない(手動)。離脱傾向のある方には見守りを行い、自然なかたちで対応する。身体拘束廃止委員会(年4回)や内部の勉強会開催、加えて、「虐待の芽チェックリスト」によるアンケートを年1回職員間で行っており、スピーチロックも含めたところで認識の共有を徹底、管理者からの指摘や現場における相互での注意などを通して、職員も意識を高めている。		

R7.3自己・外部評価表(事業所名コスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、事業所内で不適切なケアが行われていないかどうか毎月のユニットごとのミーティングで確認している、アンケートも定期的に行い不適切なケアが行われていないか確認している		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は、実際利用されている方が2名いて月1回面会がある為に職員もよく理解している。成年後見制度を利用している方は以前はいたが、現在はいないが、勉強会で理解に努めている	現在成年後見制度の利用者はいないが、日常生活自立支援事業を2名の方が利用している。職員は内部研修や実務を通して認識を深めている。求めがあった場合に備えて事業所内にパンフレット等は常備しており、必要時には管理者主導で説明をしたり、外部機関を案内したり、という体制が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書締結時は、事前に書類を読んで来てもらい契約時十分な説明を行う、また疑問点を尋ねている、改定時は速やかに文書を渡し説明し同意を得ている、解約時は十分に話し合いを行い次の施設又は病院に繋げている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営状況は、運営推進会議の次第と議事録を全家族に郵送しており、面会時に意見要望を聞いたりしている、毎月担当のスタッフが家族に状況報告を兼ねた手紙を書き送っている	コロナ禍も落ち着き、家族の面会も緩和、制限を撤廃しており、家族の来訪時にはなるべく直接意見などを聴く機会を設けるようにしている。写真や近況報告のお便りを送ったり、電話で連絡を取り合ったりしている。要望や意見などのすくい上げに努めており、それを職員が共有して日常のケアに生かしている。苦情に対する第三者委員会も設置している。	今後、さらに意見をくみ取れるような取り組みとして、独自アンケート(以前は、年1回行っていた)や家族会開催なども検討なさってはいかがでしょうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会の後のカンファレンスで意見を伝えてもらうようにしている、それを基に、代表者、管理者との個別面談を行う時もある、その都度話し合いをする事が多い	申し送りやミーティング、カンファレンスや、また日常の会話などを通して、職員間の情報が共有されている。代表・管理者・リーダーらとの個人面談の機会も設けている。日常的に管理者には相談しやすい雰囲気があり、意見も言いやすく、また事業所側も改善できる点は速やかに取り組まれている。風通しが良い環境になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価表を記入してもらい職場環境・条件の整備に努めている、代表者との個人面談を設けるなど意見を伝える機会がある		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用は、人柄ややる気を重視している年齢や性別による差別はしていない、職員は働くなかで、得意分野を生かして生き生きと働けるよう配置などに配慮している	職員の年齢層は幅広く、個々の能力や特技、経験を勤務に生かして、生き生きと仕事をしている。事業所として、職員の資格取得や外部研修参加にも前向きであり、スキルアップにも努めている。希望の休みやシフトなども考慮され、休憩時間・場所も確保されており、メリハリのある勤務ができる。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名コスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修、内部研修で学ぶ機会がある、利用者様の尊厳については、認知症ケアの原点でもあり、繰り返し勉強会で学んでいる	職員は利用者の尊厳(個性、その人らしさ)を大事にして接するように心がけている。代表が行う勉強会で学ぶ機会がある。職員は利用者を1~2名担当しており、月1回のカンファレンスでは、人権に関しても話をすることがある。	講師派遣やDVDのレンタルなどの利用もできますので、効果的な勉強の手段として、考慮されたいと思います。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は外部研修にほぼ参加していない、が来年度は認知症介護実践者研修に1名以上参加する計画をしている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の地域交流会議に積極的に参加し他の事業所の取り組みなどをきき、参考にしている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には、出来る限り、こちらから出向き入所前の環境を確認させてもらい、直接本人と面会し、要望を聴いている又、できるだけ本人にホーム見学にきてもらっている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の方とは、事前に十分にお話を伺う時間を設け、困り事、不安、要望を丁寧に聴いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	場合により、他のサービスを紹介したり、久留米市が発行している「高齢者支援パンフレット」をみてもらい説明したりしている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に仕事(家事)をしたり、マンツーマンで散歩したり、外気浴、外出を共にする時間を多く持つようにしている、できるだけ、本人の希望に添えるように支援している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、日頃の様子を伝えたり、ケアについて相談したり協力をお願いしたりしている、本人と家族の絆を大切に要望に答えている		

R7.3自己・外部評価表(事業所名コスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と馴染みのお店へ一緒に出かけたり、お寺へお参りに行かれたりされている、知人や家族へ電話をかけたり、年賀状を出したりするお手伝いをしている、知人、友人の訪問もある、在宅時のケアマネージャーに訪ねてきてもらう事もある	コロナ禍が落ち着き、家族とは面会だけでなく、外出(外食・外泊も含む)もできるようになり、非常に喜ばれている。行きつけにしていた美容室へ、家族がお連れしているケースもある。職員は、収集している情報(昔の仕事や住まい、よく行った場所のことなど)から懐かしい話をしたり、家族や親しい人々と電話や手紙で連絡を取り合うかたちでの支援を行っている。散歩や、その途中で市民農園に寄った時などに、馴染みの方と話をすることも。コロナ禍で中断していた介護相談員の来訪も再開(月1回)した。職員は、馴染みの事柄との結びつきの継続は、刺激を誘発することにもつながると考えている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う方同士で食事が出来る様、食事の場所を配慮したり、レクレーションなども座席などを配慮している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになられた方のお家にお参りに行ったり、家族のご様子を訪ねたりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時、「らしきシート」を記入してもらい、暮らし方、意向の把握に努めている	利用開始(入居)時は、自宅や病院、もとの施設などに管理者・リーダーが訪問してアセスメントを行い、口頭で聞き取った情報を記録に残すとともに、事業所独自の「らしきノート」を記入してもらい、思いや暮らし方の希望、意向、家族との関係性などの把握に努める。職員は様々な立場で本人からの発露を引き出そうと努めるが、難しい方には、表情や感情の変化を読み取るようにしている。職員は情報を共有して、快適に過ごしてもらえるような意識をもって対応している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「らしきシート」にて、生活歴、馴染みの暮らし方生活環境、家族との関係性などの把握に努めている、入居時には、以前の情報を頂き事前にスタッフ皆で把握している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方の希望は本人と職員皆で把握し希望を聞いている、心身状態、有する力について介護記録に記録しケアプラン作成時アセスメントしている、月1回のミーティングで個別カンファレンスを行い確認し合っている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は各担当、ユニットで課題を吸い上げ看護師、医師、ケアマネ、ユニットリーダー、本人、家族と意見を出し合い作成している、月1回の個別カンファレンスでも意見を吸い上げている	ケアプランは、毎月のカンファレンスにて担当者・職員などの意見を吸い上げ、本人・家族・必要な関係者とも話し合い、計画作成担当者が作り上げる。モニタリングは毎月、アセスメントは半年に1回および随時行う。担当者会議では、本人・家族の意向、満足度、目標達成状況を踏まえ、主治医にも照会を依頼したりする。ケアプラン上の目標は全職員で共有が図れている。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名コスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りを活用し日々の情報の共有に努めている月1回のミーティングにおいて担当スタッフがそれらの記録を確認し現状報告を行う事で介護計画の見直しに繋げている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族支援が困難な方を眼鏡修理や美容室、病院の入退院の手続き送迎など代行する事もある、書類の手続きの代行、買物など必要な事は引き受けている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護タクシーを利用して受診に行ったり、バスで家族と外出されたりしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医のつむらファミリークリニックの先生の支援のもと、家族へ、連絡、報告、相談は迅速に行っている、家族が遠方の方には、直接電話にて説明をして下さるか、往診時以外でも先生の方からホームに説明に向いて下さる事もある。専門医への紹介状も迅速に頂き迅速に受診につなげている	提携医の「つむらファミリークリニック」の医師の支援のもと、利用者は安心して過ごしている。訪問診療時(それぞれのユニットごとに隔週の定期訪問の他、それ以外でも出向いてくれる。緊急時には24時間連絡が可能)には事業所の看護師が立ち会う。遠方の家族には医師が直接電話で説明してくれる。他科受診は医師から医師に報告がなされ、受診は基本的に家族が対応する。情報は事業所内と家族(報告を徹底)にて共有している。看護師による日常的な体調管理や緊急時の対応もなされており、家族の安心につながっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化や気づきはその都度看護師につたえ、定期往診時に、介護職と共に医師へ伝えていく、又心配な時はオンコールで看護師が駆けつけて対応している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族と病院の連携室と連携をとり、情報提供を速やかに行っている、退院時カンファレンスにも参加している。病院連携室から入居相談も多い		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、看取り支援についての話をしている。医師から看取り時期についての方針を確認された時に家族に改めてお話ししている、方針が決まったら看取りプランを作成し、皆で共有し看取り体制をとっている、津村先生の献身的な往診が皆の支えとなり、経験を積んでいる	事業所としては希望があればできる限り最期まで支援する方針で、契約時にその指針を説明し確認している。早い段階から状況の変化に伴い話し合いを重ね、関係者間の方針共有に努めており、また研修も実施されている。最近も2名看取りを行っている。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名コスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年に1回は外部から講師を招きAEDを使用した心肺蘇生法の実践研修を行っている、事故発生時の対応の勉強会(内部研修)も行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回火災時の総合避難訓練を行っている 夜間想定訓練も行っている	年2回訓練を行っている。(夜間火災想定もあり)、消防署の指導のもと、避難誘導や消火器使用などの方法を理解して実践したり、避難経路や場所を確認したりする他、日常的にBCPマニュアルや防災マップの整備に努めている。水と食料品などの備蓄も確保されている。水害の危険性はない地域と聞く。	地域での訓練は行われていないと聞く。事業所の訓練には、地域住民や利用者家族に対してアナウンスは行っているとのことですが、訓練を行って万全な体制で臨んでいることを報告をして安心してもらうと同時に、万一の場合の協力をお願いする意味もあって、できれば参加していただけたら良いと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守るケアについて、繰り返し勉強を行っている、丁寧な言葉遣いを皆で心がけている	声掛けを含めたコミュニケーション、接遇やマナー、モラルに関して研修(年1回、代表による)を行っており、それを活かして現場では、親しみやすさの中にも礼儀をわきまえた対応に努めている。必要時には管理者から、または職員相互にて随時注意喚起を行っている。写真の利用に関しては家族から書面で同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度希望を聞いて選択してもらっている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の過ごし方の希望を本人、家族に聞いてできるだけ、自由に過ごしていただけるように配慮している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は自分で選んで着てもらっている、散髪は、2ヶ月に一回ホームでできるが、家族といきつけの美容室に行かれる方もいる		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、希望を聞きながら、職員が作成している下ごしらえ、片付けも一緒に行っている、サンドイッチ作り、おはぎ作りでは、毎回喜んで参加されている	毎食手作りの食事を提供しており、利用者の笑顔が見られる。職員が2週間分のメニューを立てて(利用者に好みを聞くが、麺類やパンの希望も根強く、献立に入れている)、調理を行う。調理の得意な職員がいて、合わせ酢など、独特の調味料を作り置いている(そのため調理の効率も良い)。食材は職員が利用者と一緒に買い出しに行く。下準備(里芋の皮を剥いたり、もやしのヒゲ切りをしたりする)や配下膳などを利用者も手伝っている。市民農園からの野菜などの差し入れなどを使うこともある。食事形態(ミキサー、刻み、トロミ付など)や療養食(減塩、水分摂取量等)、嗜好への対応もできる。特別食や行事食(誕生日、敬老会、おせち料理)も手作り。食事が楽しいひとときになるように努めている。	

R7.3自己・外部評価表(事業所名コスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と相談し、制限が必要な方については食事量、栄養、水分量の個別対応、状態把握をしている、食習慣など家族、本人から聞いて対応している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回訪問歯科より、希望者は口腔ケアを受けている、指導のもと毎食後職員が個別にケアを行う、又歯科医師に直接相談している。食事前に「お口の体操」を皆で行い、誤嚥性肺炎の予防をしている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレで排泄できるよう支援している、各個人の排泄チェック表に記載して皆で共有し把握している	職員は排泄チェック表を使用、時間や状態を確認、状態を共有して、適切な時間にトイレに誘導している。誘導時間の間隔、おむつなどの変更などを適宜話し合って改善につなげる材料として役立っている。できる限り自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の食事量、水分量を把握し散歩や体操を促し予防に努めている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日と時間帯は事業所側で決めているが、入浴を楽しめるように本人の希望を聞いて一人で入りたい人は一人で、手伝いをしてほしくない人はさりげなく脱衣所で待機するなど個別に対応している、同性介助を希望の方にも応じている	基本的に昼過ぎから夕方までで、冬は週2回、夏は週3回、個浴にて対応している。汚染が見られる方、拒まれる方などのために随時対応も可能ではある。ボディソープやシャンプーなどは自由に選べる。脱衣室・浴室共に暖房が整っている。プライバシーにも配慮しながら、職員とのコミュニケーションの場としても入浴を楽しんでもらっているが、同時に皮膚疾患など身体観察の場としても役立っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の希望、状況により休息、睡眠がとれるようにしている、夜間も希望の時間で就寝して頂いている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導をうけており、直接薬剤師より、指導を受け各個人の薬について基礎疾患と合わせて理解している、症状の変化は其の都度看護師に伝え往診時に的確に伝えている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯物、買い物、食器の片付け)、散歩、などの支援を個別に行っている、役割を持って自発的に行う方もいる		

R7.3自己・外部評価表(事業所名コスモピア高良内)確定

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は希望を聞いて周りの公園と一緒に歩いている。毎日の日課の方もいる。また希望者は家族といつでも一緒に外出、外泊して頂いている。地域の人々との協力体制はない	個別もしくは少人数での近場の散歩(事業所が「内野さくら公園」に面している)、買物(毎日の食材の買い出し、道の駅、ゆめタウン久留米)、観光のドライブ(あじさいの名所の千光寺、柳川、みかん狩り)の他、外気浴、畑での花やサツマイモの生育など、季節の移ろいを求めて、目を外に向けている。職員は、刺激につながる外出を楽しませたいと思っている。	久留米には石橋文化センター(薔薇)など、見ごたえのある名所がたくさんあり、ますます心に残るような外出の支援をお願いしたい。誕生日の外食も、職員の頭にあるようで、ぜひ実現させていただきたい。外出には、家族や地域の方の支援をお願いしたいかがでしょう。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つ事で安心される事は理解しており、職員皆共有して認識している、買物を頼まれる時も快く引き受けている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、電話をされる時は手伝いをしている		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるような壁紙の飾りつけや、花を飾ったりしている。音楽やテレビなどの音は好まれない方には迷惑とならない様に音量や時間が長くならないように配慮している	ユニットにより造りが若干異なる(「すずらん」は天井が高く天窓があり開放的で採光も良い。「たんぽぽ」は床が木目調でしっとり優しい雰囲気がある)。両ユニットとも、ホールを中心に居室が配置され、全体がよく見渡せる。掃除の行き届いたフローリングの廊下は広く、車いすの移動もしやすい。窓からの眺め、事業所内の展示物、生けられた花などにより、季節を感じる事ができる。職員も、音や温度などに注意するなど、居心地良く生活できるように気を配っている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人や2~3人で掛けられるソファをとこどころに置き、時には、職員がそこで1対1で下肢のマッサージを行ったり、ゆっくり心配事の相談を聴いたりしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、家具や寝具など自宅から持ってきてもらい、家族の写真を飾って居心地よい空間づくりをしている、テレビや仏壇など個々の過ごし方の希望が反映されている	各居室にはベッド、カーテン、エアコンが事業所によって用意されている。間口が広く車いすでの出入りがしやすい。テーブル、整理ダンス、仏壇・作品、写真、お祝いの品など、使い慣れた愛着のある物を思い思いに持ち込んで置かれている。職員は、日頃の掃除に加え、安全に移動できるようなレイアウトにも気を配るなど、落ち着いて過ごせるような配慮がなされ、利用者は居心地良く過ごしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている、手すりなど利用して移動したり、立ち上がりやすいように、ベッドの高さなど調節している		